二〇一六年　十一月

「今月の言葉」と「今月の聖語（せいご）」についての紹介

今月の言葉

とおく、いのちをもたずして、今日ばかりと、おもえ

蓮如上人（れんにょしょうにん）

これは本願寺第八世蓮如上人のお言葉で、私たちのいのちは、長く続くわけではなく、今日で終わるものと思い、生きなさいという意味です。

ところで、アシュリー・ヘギさんというアメリカの少女をご存知ですか。著書が日本でも売られており、テレビでもドキュメンタリーが放映されました。生まれつき、プロジェリアという病にかかり、二〇〇九年に、十七歳で亡くなりました。この病気は、通常の五～十倍の速さで老化が進むというもので、八百万人に一人がかかる難病でした。高校を卒業できませんでしたが、力強く人生を全うした彼女は、生前次のような言葉を遺しました。

「人生は長さなんかじゃなく、どう生きるかでしょ」

この病気は八百万人に一人がなるかもしれません。しかし、老・病・死は、すべての人に訪れます。今月の言葉と、アシュリーさんの言葉を合わせて味わう時、真実は、時間と空間を超えて、今を生きる私たちに厳しく問いかけているように思われます。今日あなたはどう生きますか、と。

今月の聖語（ぼんのう）

煩悩（ぼんのう）、眼（まなこ）を障（さ）へて見たてまつらずといへども、
大悲（だいひ）、倦（ものう）きことなくしてつねにわれを照らしたまふ

『教行信証（きょうぎょうしんしょう）』

「ああしない、こうしなさい」

いろいろとあなたを指摘してくれる親のことを疎ましく思ってしまったという人はいませんか。もちろん、同じことを何回も言われたり、言い方が厳しかったりする時は、なかなかすぐに受け入れることは難しいかもしれません。

しかし、しつけは「躾」と書きます。あなたの「身」が「美」しくなるように、目先の楽しさや、損得勘定を超えて、願いをかけてもらっているということは忘れないでくださいね。

同様に、私たちは仏さまに願いをかけてもらっています。聖語の意味は、煩悩という色眼鏡をかけて物事を見ている私たちは、阿弥陀仏の救いのおはたらきに気付くことができませんが、私を救おうとしてくださる広大な慈悲は、怠ることなくこの私に向けられている、ということです。

本願寺では住職が代わられ、伝灯奉告法要が行われています。本校では今月一四〇周年記念行事が行われます。このような節目の時期に、親鸞聖人のお言葉を通じて、阿弥陀仏のお慈悲を喜ぶとともに、建学の精神を今一度確かめさせてもらいたいものです。

宗教教育係